NIEもつけワークシート 下野新聞

236

2024年11月14日付・下野新聞3面

小学校高学年向け

年　組

2024とちぎ知事選

私の視点 上

多様な学びの場充実を

とちぎ自主夜間中学
宇都宮校校長
川村（かわむら） 滋（しげる）さん（73）

「とちぎ自主夜間中学宇都宮校」では、約50人のボランティアが学習者一人一人の学びのニーズに応えながら、夢や目標の実現を応援しようと活動しています。目指すのは、誰一人取り残さない社会です。

学習者のうち、約6割が外国籍です。さまざまな理由で義務教育を十分受けられなかった方や、不登校の小中学生も通っています。

県内でも不登校の児童生徒が年々増えるなど、夜間中学を含む多様な学びの場の必要性は高まっています。受け皿は、まだ不十分だと言わざるを得ないと感じます。学校だけでは対応が難しい面もあるので、民間との連携強化が必要ではないでしょうか。

知事選では、両候補とも「公立夜間中学」など多様な学びの場に関する公約を掲げており、うれしく思います。2026年度には、県内初の公立夜間中学が栃木市に開校します。高齢の方や運転免許を持っていない方が通うには、身近な地域にあることが望ましいです。1校で終わらせず、県央と県北にも設置拡充してほしい、と願っています。

「学ぶことがこんなに楽しいと知らなかった。もっと勉強したい」。先日、不登校を経験した30代の学習者がこう話していました。学ぶことで自信を取り戻し、一歩踏出せる人が一人でも増えてほしいです。

選挙は重要な政治参加の機会。「県政」と聞くと遠い存在に感じるかもしれませんが、候補者の政策を見ると、私たちの生活に直結するものが多いです。多くの人に投票に行ってほしいと思います。

私自身は、学びの場の充実はもちろん、両候補者の政策を総合的に見た上で判断したいです。5年後、10年後、より良い栃木県となるよう願いを込め、1票を投じるつもりです。

（構成・小口華奈子（こぐちかなこ））

略歴
1951年、旧今市市生まれ。宇都宮市在住。元小学校長。2021年8月開校の「とちぎ自主夜間中学宇都宮校」の校長を務める。

設　問

【1】とちぎ自主夜間中学宇都宮校では、誰がどんな思いで活動しているのでしょうか。

【2】とちぎ自主夜間中学宇都宮校にはどのような人が通っているのでしょうか。

【3】夜間中学と栃木県知事選挙はどう関係しているのでしょうか。

【4】とちぎ自主夜間中学宇都宮校の校長先生はどのような考えで投票する予定でしょうか。

【5】夜間中学校では、どんな時間割で、どんな1日を送っているのでしょうか。「『夜間中学』を知っていますか？（政府広報オンライン　https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201601/1.html）」などから調べてみましょう。

出題・監修は宇都宮市小学校教育研究会社会部会・小森牧人（こもりまきと）雀宮東小教諭